

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101389		
法人名	医療法人 鴻志会		
事業所名	グループホームサムデイ		
所在地	徳島市川内町平石若松95		
自己評価作成日	平成25年9月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所では、利用者に明るく楽しく安らぎと幸せを実感を基本に置き、一人ひとりのできる事や得意とする事を見出すような場面づくりを行い、新たな取り組みなども企画し、ご利用者様の可能性を見出す支援を行っている。また、利用者や家族が安心して、安全、清潔に暮らして頂けるよう、協力医療機関や訪問看護協会との連携を図り衛生管理や身体管理を行っている。玄関先や中庭などには草花をリビングには切花を絶やさないように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、“地域とともに、あなたらしく、私らしく、生き生き長生き”を理念とし、利用者本位の生活を大切に、一人ひとりの力を発揮できる取り組みを行ない、日ごろの生活が楽しいものとなるよう支援している。また、お楽しみ会等を企画し、地域住民との交流を積極的に図り、馴染みの関係の構築に努めている。運営推進会議では、参加者が地域行事への参加を促してくれるなど、相互に信頼関係が築かれつつある。また事業所は、“家族とともに”をモットーに、家族間の交流を年間行事に組み込み、積極的に取り組んでいる。管理者は、職員の育成を重視し、事業所内外の研修の受講を勧めるとともに、他事業所との交流も積極的に行ない、サービスの質の向上に繋げている。法人の医療機関と訪問看護の24時間体制の医療連携を図り、利用者や家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			一階 実践状況	一階 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で、地域密着型の理念の意義をふまえた支援に取り組んでいる。	全職員は、事業所の理念を理解したうえで、利用者本位のケアの実践に向けた話し合いを行っている。また、理念を具体化していくことをつねに意識し、サービスの提供に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	農産市や公園、季節毎の果物狩と、家族の協力のもと、新たな取り組みも行っている。施設の夏祭りに保育園児のお遊戯、地域の会長様に参加もしていただいている。	事業所は、近隣の保育所や地域の行事に積極的に参加し、地域住民と触れあう機会を大切にしている。また、近隣住民から野菜の差し入れを頂くこともあり、顔馴染みの関係が築かれている。民生委員等から情報を得て、地域との交流に積極的に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や運営推進会議の際などに勉強会や話し合いを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価での結果を報告したり、今後の取り組みについて話し合っている。また、運営推進会議で出された意見を日ごろのケアに反映している。	運営推進会議には、民生委員や保育所長、地域住民の参加が多く、事業所の取り組みを知ってもらう機会となっている。事業所への地域の理解や支援、協力が得られ、双方向的な会議となっている。出された意見や要望は、サービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者や包括支援センター担当者とは日頃より頻回に相談をさせていただけており、丁寧な説明や指導をいただけている。	このたび管理者の交代があり、運営に関することや事業所の現状を報告したりと、月に3回は市町村に出向いている。また、随時電話で相談するなど、日頃から連絡を密にとり、協力関係の構築に努めている。地域包括支援センター担当者には事業所内の会議にも出席してもらい、相談を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員は理解しており新しく入られた職員についても確認をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は、身体拘束をしないケアのあり方について理解している。また、日ごろのミーティングでは、職員間で互いのケアの確認を行っている。利用者の見守りを徹底することで安全で自由な暮らしを支えるケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員は理解しているが、カンファレンスで言葉の虐待についても接遇マナーを学ぶ施設研修を予定している。全職員で共通認識を深めている。			

自己	外部	項目	一階		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で話し合う機会を設けたり、入居時に権利擁護の説明が必要と思われる方には個別に説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、利用者や、家族に不安な事や、要望を尋ね契約事項に沿って十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より面会時等で意見や要望を尋ね、月に一回の近況報告等でも担当者は改善の報告をしたりして個々でのコミュニケーションも図っている。運営推進会議や家族会でも話し合う機会を設けている。	職員は、日ごろから利用者や家族から意見や要望を引き出す努力をしている。出された意見等は手渡しで報告を行っている。また、運営推進会議や家族会に法人の管理者が参加し、要望等には速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はカンファレンスに参加し管理者は日頃より職員の意見や要望に耳を傾け、すぐに改善策を伝えるようにしている。話し合いが必要な内容についてはカンファレンスで話し合う機会を設けている。	管理者は、日ごろから職員の意見や提案を聞くように心がけている。また、法人の朝礼に職員が参加したり、月1回代表者が参加する職員会議で事業所の現状や職員の気づき、アイデア、要望等を伝え、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則により、子育てや介護、病気等に関する規定を設けている。また、特例的な措置にも対応可能な体制を構築している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には、順次、研修を受ける機会を設けており職員のスキルアップ、またサービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流により情報交換に努め、サービスの質の向上に努め、施設での行事等で行かせる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	一階	
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			外部評価 次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者や家族の困っていることや要望等に耳を傾け、生活暦の把握をし信頼関係の構築に向けコミュニケーションを図り、希望を取り入れた支援を行っている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前の面接時に、家族が今一番困っている事や不安な事、利用者の今までの生活について聞き取りをし今後の方針について話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での生活について聞き取りをし、どのようなサービスを求めているか、またどのような事が出来るのかを把握し、事業所で出来る事を考え実践できるよう支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、常に行動を共にし役割分担をする事で職員が助けていただく場面が多々見られている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告をし、事業所の行事時、またお便りなどでも利用者の悩みや望みをお伝えし、家族との外出の機会も増やして頂いて職員と家族が共に利用者を支えていけるように支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には面会についての希望をお聞きして友人や近隣住民の方の面会が円滑に行えるように支援している。利用者一人ひとりの希望に応じた支援を心がけている。	職員は、友人や家族、親戚の来訪を歓迎したり、電話や手紙の支援も行っている。また、地元の商店への買い物に付き添うなど、馴染みの関係が途切れないよう外出支援にも取り組んでいる。家族へも働きかけ、利用者や家族の関係が途切れないように心がけている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係がうまくいように利用者同士の関係を把握し利用者同士の関わり合いや支え合いを支援し、一人ひとりが孤立しないように努めている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価	一階	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が入院等の理由により転院に至った際には職員がお見舞いに行くようにしており、また退去後、数年が経過した家族との交流もあり介護職員の募集時に紹介を下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃より利用者とのコミュニケーションを図った支援を行っており利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	利用者ごとに担当職員を配置している。職員は、日ごろの行動や会話から利用者の思いを把握するよう努め、利用者本位の暮らしができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の馴染みの暮らし方、生活環境を利用者や家族、面会者様よりお聞きし、情報収集しサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの得意とする趣味、能力に応じた役割分担、テレビ体操や毎食後の検温、会話等コミュニケーションによる体調不良の早期発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族から希望や要望をお聞きし職員と話しあい利用者の現状に即した介護計画の作成に努めている。	本人や家族の希望、医師や看護師、職員の意見等を踏まえたうえで関係者で話しあい、現状に即した介護計画を作成している。利用者に要望や状態変化があれば、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画を生かしたケアの実践、気づきや工夫を生活記録や日誌に記入して職員間で情報の共有をし実践や介護計画の見直しに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の入院や病院受診等、その時々々の状況に応じて利用者さま、家族の要望に対して柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			一階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理・美容は出張理・美容を利用させて頂き歯科受診が困難な利用者には訪問診療にて対応させて頂いている。利用者の心身の状態に応じての対応を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談させて頂いた上で、かかりつけ医や納得された医療機関の受診をして頂いている。利用者や家族の希望されている医療機関の受診を心がけ相談しながら適切な医療を受けられるよう支援している。	事業所は、月2回法人の医療機関による訪問診療と訪問看護を受けている。必要に応じ、通院の支援も行っている。職員は、かかりつけ医や訪問看護との連携を図り、利用者の状況把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護協会の訪問看護師との連携により週一度の訪問看護にて健康管理をして頂いている。個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように医療機関や看護協会との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に状態の確認をさせて頂くと共に職員も面会に行き病院関係者との関係づくりや情報交換や相談をし退院の予定について家族と話会うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について早い段階から利用者、家族と相談し協力医療機関とも相談しながら今後の治療方法や看取りについての方針について確認させて頂きチームで支援に取り組んでいる。	事業所は、入居の早い時期から重度化した場合や終末期について本人や家族と話しあっている。母体の医療機関や訪問看護と連携を図り、夜間や休日など24時間体制を構築している。また、随時、職員間での方針の共有を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス時に勉強会を行い急変時の対応、事故発生時に備え応急手当や初期対応の手技や方法を身につけている。また、aedの使い方についても専門の方を招き勉強会を開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行い、避難場所を協力病院と決めておりますが、災害の多様化に対応できるように地域住民の協力を得られる体制づくりを目指している。	事業所は、年2回、日中と夜間を想定した防災・避難訓練を実施している。その反省点を踏まえ、シート等を使用しての避難誘導訓練等、実践的な取り組みも行っている。運営推進会議の際に関係者とも話しあい、地域の方にも協力を呼びかけている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 一階 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心やプライバシーを損ねないように言葉かけや対応には十分な配慮をした支援をしがけている。	職員は、本人の自尊心を損なうことのないよう、利用者一人ひとりにあわせた声かけや対応を行っている。また、居室の名前プレートを外し、折り紙や切り絵を張ることで区別するなど、プライバシーの配慮に努めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、その時々言葉や表情から読み解き、理解し、利用者の思いや希望の表出、自己決定ができるように支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて言葉かけ、見守りをしている。また散歩や買い物なども希望に沿って支援させて頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力もあり、利用者の個性や希望に合わせた身だしなみの支援をしている。季節を感じて頂ける支援に心がけている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も食堂にて、利用者と一緒に会話や食事を楽しんでおり、野菜の皮むきや筋取りなど下ごしらえもお手伝いして下さり、軽いコップやお箸の引き善、テーブル拭きなども職員と一緒にしてくださる、食器洗いもして下さる。	利用者と職員は、音楽の流れる食堂で同じテーブルを囲み、談笑しつつ食事を楽しんでいる。また、調理や食事の準備、片付けなども、利用者一人ひとりの能力に応じて、役割を担ってもらっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量や水分摂取量の記入をして一日の摂取量の確認をしている。一人ひとりの状態に合わせた支援を心かけ、好みや習慣なども把握しメニューに生かしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの状態に合わせた対応をさせて頂いている。義歯は夜間、洗浄剤に浸けて消毒を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			一階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの能力や状態に応じて支援している。排せつのサインや習慣等を見逃さないよう観察し、下剤を服用された利用者は時間の把握をタイミングを計りトイレでの排泄を促している。	職員は、排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めている。排泄パターンについては、カンファレンスを行ない、職員間で共通した対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の便秘について理解している。毎日のテレビ体操、タオル体操、廊下歩行練習などの運動に加え、さつまいもや海藻の摂取を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望に応じて、また体調を確認して個々の希望に応じての入浴を心かけている。	事業所は、利用者の希望やタイミングにあわせて入浴できる体制を整備している。入浴を拒む利用者には、声かけや説明を行い、希望や状態にあった入浴が選択できるよう働きかけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣の把握をし、その時々で対応させて頂いている。規則正しい生活を心がけ、夜間の不眠が見られた場合には日中の状態に合わせて安眠の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や、副作用、用途、容量を理解しており、症状の変化や安定について職員間で話し合い、隔週の主治医の往診時や訪問看護時には報告している。投与時の服薬確認も厳重に行い変更時間違いの無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好みや生活習慣に合わせた役割分担ができており、得意分野での活躍を生きがいや励みにされ生活されている。今年にはゴーヤの成長や百人一首を新たな楽しみにされている利用者もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年の春は事業所で初めての、いちご狩りを企画し、家族の協力のもと、とても喜んで頂けており、利用者との会話のなかで、また行きたいとの要望がありました。中庭での日光浴や花の水やり、野菜の収穫、掃除など日常的に外に出られるように支援している。	事業所は、園芸や畑仕事等、個人の希望に応じて日常的に戸外での活動を行っている。また、季節に応じた外出行事を企画し、実施している。地域の夏祭りや買い物、ドライブなど行きたい所への個別の対応も行い、外出が楽しくなるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			一階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者がお金を持ち管理することの大切さを理解しており、家族と相談し、希望や力に応じて所持して頂いている。買い物や外出に応じて支援させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が携帯電話を用意されている利用者については、要望に合わせて連絡の支援をさせて頂いている。また、公衆電話から連絡の仲介役になったり季節のお便りの支援もさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には常に季節の花を生ける事を心がけ、木炭を置き消臭に心がけている。できる限りシンプルで馴染みのある空間づくりをめざし、浴室やトイレには分かりやすく表札での案内をするなどの工夫をしている。	リビングはゆったりとして、ソファや畳のスペースもあり、清潔感のある空間となっている。壁には季節の書道やちぎり絵が展示され、季節感にも配慮している。また、利用者の詠った短歌や俳句が展示され、家庭的で安心感のある環境づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやダイニングテーブルの椅子に座られ、気の合った仲の良い利用者同士で昔話をされたり、ひとりでパズルをされたりと思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と写した写真ですとか、趣味や好みの装飾品、またテレビ、冷蔵庫、扇風機など、利用者に合わせて家族が用意してくれている。利用者の要望を家族に伝えたりの支援や相談もさせて頂いている。	居室には使い慣れた物品を持ち込んでもらっている。また、写真や観葉植物を飾る方や、位牌を祀られている方もおり、本人の生活習慣や居心地のよさに配慮した居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の洗面所、トイレ、洗濯場などの共用部分には目印をかけたり、歩行ルートの安全確保をして、できる事、わかる事を活かして安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			二階 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で、地域密着型の理念の意義をふまえた支援に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	農産市や公園、季節毎の果物狩と、家族の協力のもと、新たな取り組みも行っている。施設の夏祭りに保育園児のお遊戯、地域の会長様に参加もしていただけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や運営推進会議の際などに勉強会や話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価での結果を報告したり、今後の取り組みについて話し合っている。また、運営推進会議で出された意見を日ごろのケアに反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者や包括支援センター担当者とは日頃より頻回に相談をさせていただいており、丁寧な説明や指導をいただけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員は理解しており新しく入られた職員についても確認をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員は理解しているが、カンファレンスで言葉の虐待についても接遇マナーを学ぶ施設研修を予定している。全職員で共通認識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			二階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で話し合う機会を設けたり、入居時に権利擁護の説明が必要と思われる方には個別に説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、本人や、家族に不安な事や、要望を尋ね契約事項に沿って十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より面会時等で意見や要望を尋ね、月に一回の近況報告等でも担当者は改善の報告をしたりして個々でのコミュニケーションも図っている。運営推進会議や家族会でも話し合う機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者はカンファレンスに参加し管理者は日頃より職員の意見や要望に耳を傾け、すぐに改善策を伝えるようにしている。話し合いが必要な内容についてはカンファレンスで話し合う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則により、子育てや介護、病気等に関する規定を設けている。また、特例的な措置にも対応可能な体制を構築している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には、順次、研修を受ける機会を設けており職員のスキルアップ、またサービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流により情報交換に努め、サービスの質の向上に努め、施設での行事等で行かせる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			二階 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者や家族の困っていることや要望等に耳を傾け、生活暦の把握をし信頼関係の構築に向けコミュニケーションを図り、希望を取り入れた支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前の面接時に、家族が今一番困っている事や不安な事、利用者の今までの生活について聞き取りをし今後の方針について話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自宅での生活について聞き取りをし、どのようなサービスを求めているか、またどのような事が出来るのかを把握し、事業所で出来る事を考え実践できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、常に行動を共にし役割分担をする事で職員が助けていただく場面が多々見られている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告をし、事業所の行事時、またお便りなどでも利用者の悩みや望みをお伝えし、家族との外出の機会も増やして頂いて職員と家族が共に利用者を支えていけるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時には面会についての希望をお聞きして友人や近隣住民の方の面会が円滑に行えるように支援している。利用者一人ひとりの希望に応じた支援を心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係がうまくいくように利用者同士の関係を把握し利用者同士の関わり合いや支え合いを支援し、一人ひとりが孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			二階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が入院等の理由により転院に至った際には職員がお見舞いに行くようしており、また退去後、数年が経過した家族との交流もあり介護職員の募集時に紹介を下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃より利用者とのコミュニケーションを図った支援を行っており利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の馴染みの暮らし方、生活環境を本人や家族、面会者様よりお聞きし、情報収集しサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの得意とする趣味、能力に応じた役割分担、テレビ体操や毎食後の検温、会話等コミュニケーションによる体調不良の早期発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から希望や要望をお聞きし職員と話しあい本人の現状に則した介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画を生かしたケアの実践、気づきや工夫を生活記録や日誌に記入して職員間で情報の共有をし実践や介護計画の見直しに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の入院や病院受診等、その時々状況に応じて本人さま、家族の要望に対し柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			二階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理・美容は出張理・美容を利用して頂き 歯科受診が困難な利用者には訪問診療にて対応させて頂いている。利用者の心身の状態に応じての対応を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談させて頂いた上で、かかりつけ医や納得された医療機関の受診をして頂いている。本人や家族の希望されている医療機関の受診を心がけ相談しながら適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護協会の訪問看護師との連携により週一度の訪問看護にて健康管理をして頂いている。個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように医療機関や看護協会との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に状態の確認をさせて頂くと共に職員も面会に行き病院関係者との関係づくりや情報交換や相談をし退院の予定について家族と話会うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について早い段階から本人、家族と相談し協力医療機関とも相談しながら今後の治療方法や看取りについての方針について確認させて頂きチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス時に勉強会を行い急変時の対応、事故発生時に備え応急手当や初期対応の手技や方法を身につけている。また、aedの使い方についても専門の方を招き勉強会を開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行い、避難場所を協力病院と決めておりますが、災害の多様化に対応できるように地域住民の協力を得られる体制づくりを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			二階 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心やプライバシーを損ねないように言葉かけや対応には十分な配慮をした支援をし心にかけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、その時々言葉や表情から読み解き、理解し、本人の思いや希望の表出、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて言葉かけ、見守りをしている。また散歩や買い物なども希望に沿って支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族のご協力もあり、利用者の個性や希望に合わせた身だしなみの支援をしている。季節を感じて頂ける支援に心にかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も食堂にて、利用者と一緒に会話や食事を楽しくしており、野菜の皮むきや筋取りなど下ごしらえもお手いして下さり、軽いコップやお箸の引き善、テーブル拭きなども職員と一緒にしてくださる、食器洗いもして下さる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量や水分摂取量の記入をして一日の摂取量の確認をしている。一人ひとりの状態に合わせた支援を心かけ、好みや習慣なども把握しメニューに生かしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの状態に合わせた対応をさせて頂いている。義歯は夜間、洗浄剤に浸けて消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			二階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの能力や状態に応じて支援している。排せつのサインや習慣等を見逃さないよう観察し、下剤を服用された利用者は時間の把握をしタイミングを計りトイレでの排せつを促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の便秘について理解している。毎日のテレビ体操、タオル体操、廊下歩行練習などの運動に加え、さつまいもや海藻の摂取を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望に応じて、また体調を確認して個々の希望に応じての入浴を心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣の把握をし、その時々で対応させて頂いている。規則正しい生活を心がけ、夜間の不眠が見られた場合には日中の状態に合わせて安眠の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や、副作用、用途、容量を理解しており、症状の変化や安定について職員間で話し合い、隔週の主治医の往診時や訪問看護時には報告している。投与時の服薬確認も厳重に行い変更時も間違いの無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好みや生活習慣に合わせた役割分担ができており、得意分野での活躍を生きがいや励みにされ生活されている。今年はゴーヤの成長や百人一首を新たな楽しみにされている利用者もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年の春は事業所で初めての、いちご狩りを企画し、家族のご協力のもと、とても喜んで頂けており、利用者との会話のなかで、また行きたいとの要望がありました。中庭での日光浴や花の水やり、野菜の収穫、掃除など日常的に外に出られるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			二階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持ち管理することの大切さを理解しており、家族と相談し、希望や力に応じて所持して頂いている。買い物や外出に応じて支援させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が携帯電話をご用意されている利用者については、要望に合わせて連絡の支援をさせて頂いている。また、公衆電話から連絡の仲介役になったり季節のお便りの支援もさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には常に季節の花を生ける事を心がけ、木炭を置き消臭に心がけている。できる限りシンプルで馴染みのある空間づくりをめざし、浴室やトイレには分かりやすく表札での案内をするなどの工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやダイニングテーブルの椅子に座られ、気の合った仲の良い利用者同士で昔話をされたり、ひとりでパズルをされたりと思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と写した写真ですとか、趣味や好みの装飾品、またテレビ、冷蔵庫、扇風機など、本人に合わせて家族が用意してくれている。利用者の要望を家族に伝えたりの支援や相談もさせて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の洗面所、トイレ、洗濯場などの共用部分には目印をかけたり、歩行ルート of 安全確保をして、できる事、わかる事を活かして安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		